



# DNAってなに？

…食べ物にふくまれた体の作りを決めている物質

よく新聞やニュースなどでDNA、いでんし遺伝子、せんしよくたい染色体、ゲノムという言葉を目にします。ゲノムとは、その「いきもの」にとって必要とされる遺伝子情報をさし、一般的にはDNAという化学物質で構成されています。遺伝子やDNAという言葉は耳慣れないですが、実は非常に身近にある物質なのです。

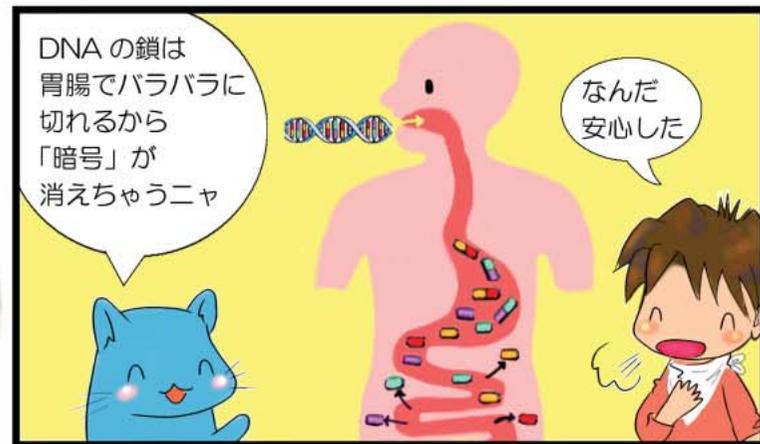
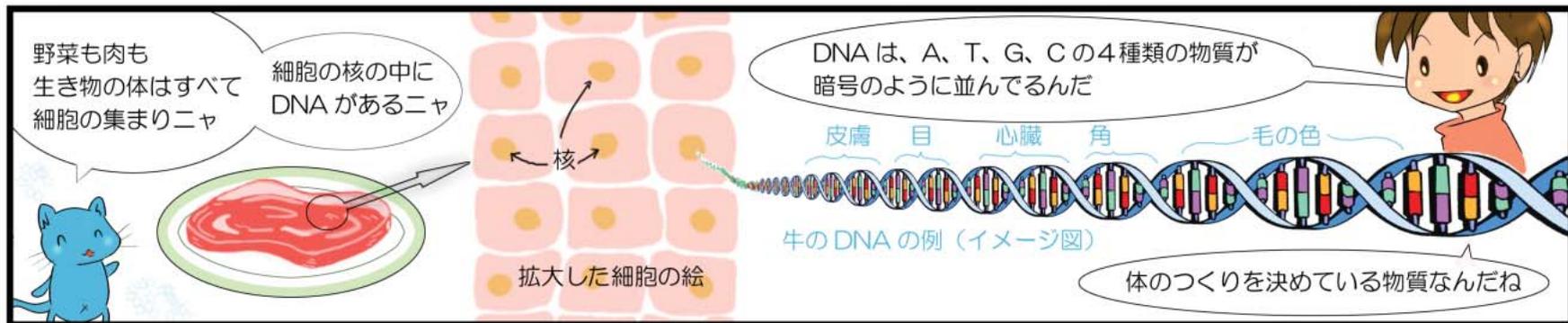
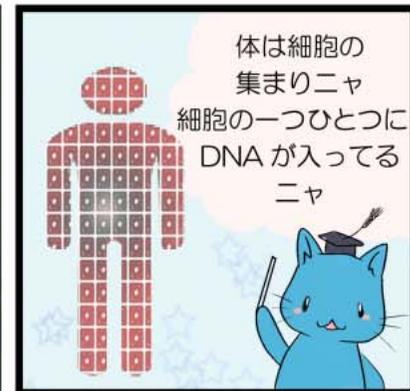
○どこにもあるDNA

1953年にイギリスの研究所にいたワトソンとクリックの2人の科学者によって、DNAの構造がわかりました。この発見をきっかけに、さまざまな生命の仕組みが解明されてきました。つまりDNA構造の決定は、それ以降の生物学の流れを大きく変えたのです。後に2人はその業績でノーベル賞を受賞しました。

DNAは、生物を形作る細胞の一つひとつに存在します。細胞は分裂して二つの細胞に分かれるときに細胞の中では染色体(DNA)が2倍に増えて、それぞれの細胞に分かれていきます。それを繰り返して体ができ上がっていくため、ほとんどの細胞にはDNAが存在します。

○いつも食べているDNA

ふだん野菜や肉を食べるときには、タンパク質、とうじつ糖質、しじつ脂質などとともにDNAも□に入っています。□に入ったDNAは体の中でさまざまな形に分解され、体を作る物質として使われます。ただし、食料として食べたDNAがわたしたちの遺伝子の中に入ってしまうことはありません。牛肉ばかり食べて寝ていた人が、目を覚ましたら牛になっていたなんてことはありませんよね。わたしたちにとってDNAというのは大切な遺伝子情報を保持する役割とともに、栄養にも一役買っているのです。



🐱 ちなみに、油やしょう油など、DNAが入っていない食べ物も、ほんのわずかだけはあるニャ